

シリーズ 地域医療の明日を考える

〈1〉 両病院統合に踏み出した大きな一歩

Akira Kishi

一般社団法人
阿南市医師会会長

岸 彰

インタビュー

Special Interview

荒井 義之

徳島県厚生農業協同組合連合会
経営管理委員会会長

Yoshiyuki Arai



地域医療の現状を見つめる

阿南市を含めた地域医療体制の現状について――

岸 医師研修制度が導入された十数年前から地方の中核病院は勤務医不足に悩まされています。若手医師は研修期間が終了する4年後には、地元でIターン・Uターンするものと思われていましたが、その後も専門医をめざし都市部にとどまることが多く、地方の医師不足は改善されていません。

阿南医師会中央病院でも5年前には勤務医不足が深刻になり、救急当番日を一部休止せざるを得ませんでした。われわれも医師確保を最重要課題として取り組みましたが、救急当番日を再開するまでには至っていません。

荒井 厚生連は、公的病院として阿南共栄病院・麻植協同病院・阿波病院の3病院と徳島県農村健康管理センターを経営しており、救急医療、小児・周産期医療、健康管理活動など地域に必要な医療分野を担っています。

現在、麻植協同病院は移転新築工事を行っています。同病院は、災害拠点病院、地域医療支援病院の機能をもち、また、分娩を再開する予

定です。

現在は、阿波病院との機能分担を含め連携強化を図っています。

人口減少、医師不足など厳しい状況となっており、このような中で阿南共栄病院は二次救急、周産期医療を維持し、地域に愛され信頼される病院として、「安心・安全の医療提供」という使命感を持って取り組んでいます。

充実した地域医療体制の構築をめざして

地域医療体制を充実するために必要なことは――

岸 阿南医師会中央病院は困難な状況を乗り越え、昭和38年に全国11番目の医師会病院として創立しました。その後、多くの方々が献身的に地域医療に努め、地域医療支援病院や災害拠点病院にも認定され、2年前には全館耐震基準を満たす建て替えが完了しました。しかし、若手医師を確保するためには専門医養成施設が必須条件であり、今後の人口減を考えれば、阿南市で2つの中核病院を継続することは困難であり、病院統合を決定しました。

荒井 医師不足、医師の高齢化という状況の中、地域医療が崩壊する前に効率的な医療体制の再構築が必要です。

その方策としては、医療資源の集約化による医療体制強化が求められます。

こうした中で、両病院の統合により、阿南医師会中央病院に隣接して新病棟を建設することは、最良の施設の有効利用と考えます。このことにより、両病院の強みを生かした「阿南中央医療センター（仮称）」として地域完結型の医療を展開することが、効率的で質の高い医療提供ができ、魅力のある病院として医療スタッフの維持定着にもつながると思います。

また、医療機関だけでなく、行政、民間団体がそれぞれの英知を結集して地域全体で医療を支える必要があると考えます。

踏み出した大きな一歩

新病院に寄せる思いは――

岸 阿南共栄病院と阿南医師会中央病院は半世紀以上にわたり、共に県南の中核医療を担ってきた自負があり、それぞれに歴史があります。しかし、新病院は両病院の良き伝統は継承し、過去にとらわれない未来指向の医療機関をめざすべきです。また、質の高い医療を継続するために健全な経営が求められ、徳島赤十字病院とは競合ではなく、補完関係を築くべきです。徳島大学の支援を

受け、呼吸器医療を新病院の診療の一つに据えたいと考えています。

また、長年医師会の希望であった災害時医療や一次救急施設を医師会が、病院の前に保有している土地に建設することを阿南市と協議しています。これらの施設を病院に隣接して建てることは、市民に大きな安心感をもたらすことになり、ぜひ実現したいと希望しています。

具体策については協議途上ですが、市民の皆様のご理解、ご支援をお願いします。

荒井 このたび、阿南医師会中央病院の資産と経営権を含め、無償譲渡のご英断を頂いた阿南市医師会に心より感謝いたします。

県南医療の歴史的な第一歩として両病院が統合して、阿南市医師会が培った地域医療を継承し、阿南共栄病院の特徴を生かし、信頼される病院を地域と共に構築し、責任をもって地域医療を担ってまいります。

医療センターでは、市民病院的な役割として災害に強く、365日、24時間体制の二次救急体制の構築に取り組みまいります。

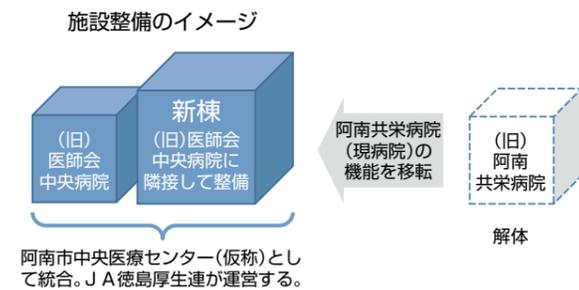
また、徳島赤十字病院や地域の医療機関との連携をこれまで以上に強化して、地域完結型の医療を実現すると共に、患者さんをはじめ、医師やスタッフにとっても魅力ある病院をめざします。



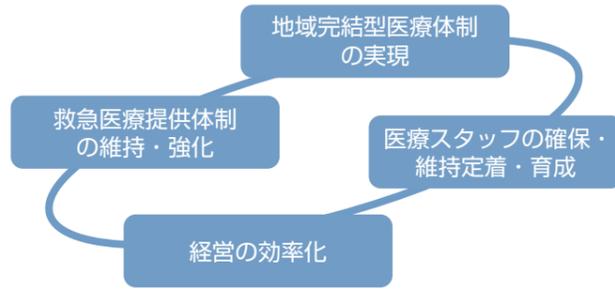
■両病院の概要

	阿南医師会中央病院	阿南共栄病院
開設年月日	昭和38年10月15日	昭和12年6月9日
開設者	一般社団法人 阿南市医師会	徳島県厚生農業協同組合連合会
所在地	阿南市宝田町川原2番地	阿南市羽ノ浦町中庄蔵ノホケ36番地
許可病床数	一般病床179床（うち急性期病床15床） 療養介護病床50床	一般病床343床（うち開放型病床10床、回復期リハビリテーション病棟40床）
各種指定	救急告示病院、災害拠点病院、 地域医療支援病院、臨床研修指定病院 等	救急告示病院、災害医療支援病院、 難病医療協力病院、臨床研修指定病院 等
常勤職員数	206人（医師18人、看護師110人、その他78人） （平成25年4月現在）	428人（医師36人、看護師234人、その他158人） （平成25年4月現在）

■施設整備計画



■統合による新病院整備の基本的な考え方



地域医療が大きな危機に直面している今、医療を提供する側の病院だけでなく、受ける側である住民、それを支える行政が相互に協力し、地域全体で地域の医療を支えていくことが必要となってきました。

こうした中、両病院の統合を支援し、地域医療体制の充実・強化を図るため

官民一体で取り組む

今後は、基本計画を策定し、基本設計・実施設計に取り掛かり、平成29年度末の開院をめざして取り組んでいきます。

「地域完結型医療体制の実現」「二次救急医療体制の維持・強化」「医療スタッフの確保・維持定着・育成」「経営の効率化」の4点です。

また、新病院における主要機能・特徴としては、①救急救命②がん診療③在宅医療④産科医療⑤脳疾患治療⑥小児医療⑦災害拠点病院⑧各医療機関との連携などの充実・強化を掲げています。

厚生連、医師会および本市は、「阿南中央医療センター（仮称）設立委員会」を設置し、新病院の整備に向けて必要な事項の協議を行っています。

新病院整備の基本的な考え方は、「地域完結型医療体制の実現」「二次救急医療体制の維持・強化」「医療スタッフの確保・維持定着・育成」「経営の効率化」の4点です。

医療センター構想

本市も例外ではなく、阿南医師会中央病院では、医師数の減少により平成21年4月から夜間における救急医療体制の縮小を余儀なくされ、現在では、市内の救急搬送数の約4割が、徳島赤十字病院などの市外の病院に搬送されています。また、平成21年3月から市内で分娩を扱う医療機関が、阿南共栄病院のみとなりました。

こうした背景には、臨床研修医制度の変更で、医師が自由に研修先の病院を選べるようになり、都市部に医師が集中するようになったことが考えられます。厚生労働省の医師数調査の直近値では、人口10万人当たりの勤務医師数は、全国平均が225.6人ですが、本市は176.2人となっており、全国平均を下回っています。

あわせて阿南共栄病院では、建設から数十年が経ち、施設の耐震化、建替えの時期が迫っており、今後の方向性を検討している状況でした。こうしたことから、平成21年12月に、阿南共栄病院と阿南医師会中央病院の経営母体である徳島県厚生農業協同組合連合会および阿南市医師会と本市の三者による「阿南市の地域医療を考える会」を設置し、地域医療のあり方、両病院の連携の方法等について協議を開始することになりました。しかし、経営理念や組織形態が異なる厚生連と医師会が連携して経営を行うことについては課題が山積し、容易に結論には至りませんでした。本市も、全国各地の病院の連携事例を提示するなど、進展の糸口を模索してまいりました。

このような中、医師会から、将来的な地域医療体制の充実・強化を図るためには、両病院を統合して新医療施設を設置することが最良の策であり、そのために、阿南医師会中央病院の資産（一部用地を除く）および経営権を厚生連に譲渡するとの申し入れがあったことから、両病院統合への道が開かれました。

このたびの統合は、将来にわたり安心できる医療体制を確立し、次世代に残すための統合であり、大規模災害時における医療の確保を図ることからも必要なものであります。



地域の医療資源の集約化による効率的な医療提供体制の確立をめざす官民一体の組織「阿南市地域医療確立対策協議会」が発足（H25.12.20）

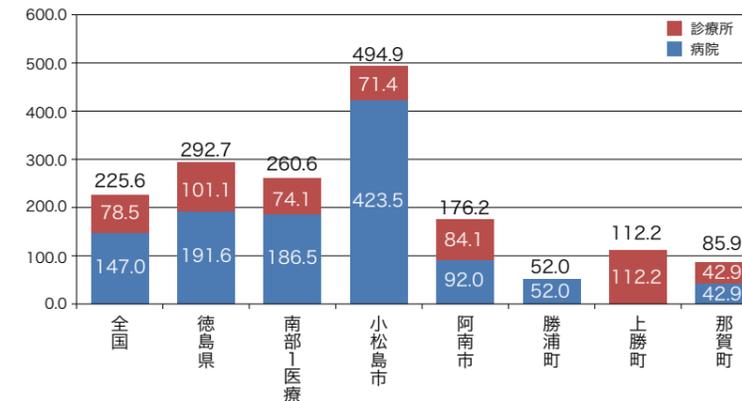
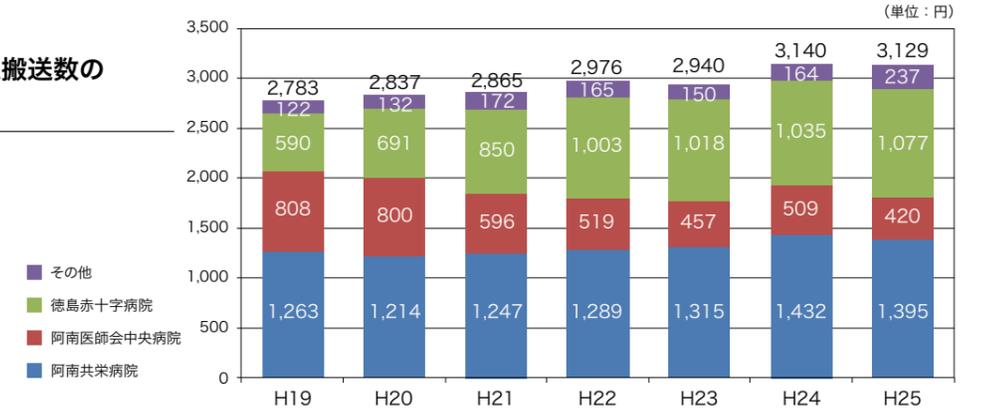
に、市内の各種団体および関係機関、那賀町・美波町で組織する「阿南市地域医療確立対策協議会」が昨年12月に設立されました。同協議会は、新病院に対しての国・県の財政支援を確保するために要望活動などを実施しています。

今後も、官民が一体となって、地域住民の命を守るすばらしい新病院ができるよう取り組んでいきます。

シリーズ②は、現在協議している阿南中央医療センター（仮称）の基本計画が策定でき次第、紹介いたします。

問い合わせは 保健センター
022-11590へ

阿南市内で発生した救急搬送数の病院別推移



人口10万人当たり医療施設従事医師数

（南部1医療圏市町別）

【南部1医療圏】

徳島県保健医療計画に定められた医療圏域。小松島市、阿南市、勝浦町、上勝町、那賀町の2市3町。

なぜ、統合に至ったのか